京都新聞　2005年5月20日

京大植物園の将来像考える

27日に公開シンポ

キャンパスの中にあって貴重な生態系をはぐくみ、多くの研究者が学びの場としてきた京都大理学研究科植物園（京都市左京区）の将来像を考えようと、研究者や学生でつくる「京大植物園を考える会」は二十七日午後五時四十五分から、京都大時計台記念館（左京区）で公開シンポジウムを開く。

植物分類学の第一人者で植物園の管理運営にくわしい岩槻邦男・兵庫県立人と自然の博物館館長が「植物園はいま」と題して基調講演した後、湯本貴和・総合地球環境学研究所教授（植物生態学）と「植物園と植物学」と題して対談。開かれた大学植物園の今後のあり方について参加者で議論する。

疏水の水が引かれた池など特色ある生態系を形成する京大植物園（京都市左京区）

考える会は、京大植物園の管理運営について考えようと二〇〇三年四月に結成、同植物園で毎月開いている自然観察会は学内外から多くの参加がある。今月は、二十三日正午からと、シンポジウム当日の二十七日午後三時から、観察会を開催する。京大農学部正門（左京区北白川追分町）を入った植物園入り口集合。先着三十人。

シンポジウム、観察会とも無料。問い合わせは電子メールで、考える会（kyotoubg@hotmail.com）へ。